



岩手県人会半世紀を祝う

日本移民100周年の記念すべき節目の年に、ブラジル岩手県人会創立50周年式典が、移民記念日(6月18日)を前に、6月15日(日)午前10時から文協講堂で、達増拓也県知事(知事は県南地方を襲った地震のため14日急遽帰国)、渡辺辛貫県議会議長、慶祝団の大石花巻市長、高橋金ヶ崎町長(地震のため14日知事と帰国)、県議会議員、賛助会員の会、岩手芸能使節団、盛岡山車推進会などのご一行、海外はニューヨーク、アルゼンチン、パラグアイの各県人会の代表をお迎えして、県人会創立50周年記念式典が会員家族や招待者など約600名出席のもと挙行された。

千田会長は、先人や会員、歴代役員等の「親睦を旨」とした地道な活動により、今日の県人会があることに感謝した。続いて達増知事の祝辞を岩間隆NPO国際課課長が代読、渡辺県議会議長は「先駆移民が構築した心」を、岩手に築きたいと敬意を表し、大石満雄花巻市長は、花巻市民も「ふるさとを思う気持ち」はお互いに変わらない、この気持ちを大事なエネルギーとして、更なる県人会の発展を祈りたいと挨拶。

南部利昭県人会名誉総裁(靖国神社宮司)は、ブラジルと岩手が互いに友好親善を深めていくことを祈ると述べた。海外県人会を代表して岩崎祐輔ニューヨーク県人会会長、当地から西林

万寿夫総領事はじめ県連代表、政治家等からの祝辞があった。

日系団体や県人会への激励金や記念品の贈呈。ウィリアム・ウー連邦議員より、達増知事へ感謝状。羽藤ジョージ市議から、知事、議長、花巻市長、金ヶ崎町長、南部利昭の各氏へステンドレスの感謝状が贈呈された。

県人移住功労者大志田寿氏ら20名に表彰があった。

阿部孝志アイレス君が、留研生を代表し留学の謝辞や意義を涙ながらに声を詰まらせ感謝していた。会場のあちこちで涙や鳴咽があり大きな拍手が贈られた。

式典後は、来賓によるケーキカット、岩手の銘酒南部美人蔵元・久慈浩介氏から提供された「南部美人」での鏡割り

り、渡辺議長の乾杯の音頭で祝賀パーティが行われた。パーティには「憩の園」入園者も招待され、午後の「いわて芸能まつり」も楽しんで頂いた。

「いわて芸能まつり」は、一般にも開放され、IBC岩手放送の菊池幸見アナウンサーの司会で、盛岡山車推進会(工藤勲会長)による音頭上げ、岩手太鼓雷神で開幕。岩手県民謡協会(藤沢清美会長)芸能使節団員の「ふるさと岩手の唄つづり」「日本の唄と踊り」、幕の合間には菊池アナの「岩手弁かたり」があり、ふるさとを懐かしんだ。



50周年記念のケーキカット



阿部アイレス君の挨拶



鏡割り

ご協力有難うございました

去る6月岩手県人会創立50周年記念式典の際は、ご多忙中にもかかわらずご臨席の栄を賜り、また、お心のこもったご祝儀並びにお祝いの品々等、ご厚情の程、誠に有難く謹んで御礼申し上げます。

歓迎交流懇親会、記念式典、郷土芸能祭りなどと共に、県人会100周年事業「杉村済公使の墓碑整備」も完工。県知事ご一行、

慶祝団、芸能団、関係者等をお迎えして披露、参拝して頂きました。この事業が日本移民の歴史に深く刻まれてゆく事でしょう。

この上は、皆様のご期待にお応えし、誠心誠意努力して参る所存です。今後ともご高配ご指導を賜りますよう節にお願い申し上げます。略儀ながら紙上を借りて御礼申し上げます。

第三代駐伯日本国杉村公使墓碑完工

「3年かかったリオの杉村公使の墓碑整備」 県人会長老の発案で2005年の総会で、移民100年祭と併せ県人会50周年特別事業として、「杉村清第三代駐伯日本国公使」（日本移民をブラジルへ導入した岩手の先人で、リオデジャネイロで1906年5月19日移民の到着を見ず急逝）の墓碑整備を決めた。

このニュースが公使の遺族でお孫さんになる新氏（東京在・元神戸大学教授）に知らされ、公使の曾孫である延宏氏（大阪大工学博士）が、5月にサンタカタリーナで開かれる学会に出席する知らせが新氏からあった。

延宏氏と連絡を取りリオで落ち合う事にした。先にリオ入りしていた延宏氏は、2002年頃墓地の上板のヒビ割れを取り換えて頂いた、鹿田明義リオ州日伯文化体育連盟理事長の計らいで、公使の命日である5月19日リオの領事さんと墓参を行っていた。県人会一行は20日早朝延宏氏と合流、公使没後99年目の墓参を行った。以後、杉村家遺族から当時の写真や情報が寄せられ資料にした。

迷ったのが整備の形と経費であった。始めは普通の台座に石や銅製の胸像を考えた。石の胸像は高価。銅や金物は盗難の恐れがあり、石碑や台座部分も試行錯誤を重ね、設計技術者である県人会賛助会員（他県人）の協力もあおった。

基本設計と経費面で業者への発注が遅れ、100周年行事で業者は様々な注文があり設置に時間がかかった。台座部分はリオの鹿田氏の協力を仰いだ。台座も多々変更、その都度見積もりを依頼。最後は墓地管理所からクレームがあり、墓地を統括するサンタカーザ、墓地事務所、石屋さんとの交渉、設置など最後まで鹿田氏の大きな協力があつた。

碑が台座に取り付けられ完工したのは6月10日。13日には達増知事や賛助会慶祝団、芸能使節団を迎えて墓碑整備完工披露式が決まっており、間一髪滑り込みセーフであった。思えば様々な面で苦労があつたが、会員、遺族の思い、現地協力者の大きな支援に支えられ完成出来た事を関係者と共に喜んでいる。これも日本移民100周年の原点があつた事であり、これを機に日系人の歴史が、新たな形で受け継がれてゆく事だろう。

終わりに、ブラジル在住者及び日本からの訪問者に、是非一度公使の墓参をして頂きたいと願っている。

場所はリオデジャネイロ市ボッタフォーゴ地区サンジョアン・パチスタ墓地、Q-39-1332



広いブラジルと岩手人の大らかさ・思いやりの心を表した碑式辞を述べる達増県知事 完工に安堵の千田会長



岩手芸能使節団大活躍

6月12日（木）芸能使節団（藤沢清美団長）・IBC岩手TVスタッフ、リオ着、夕刻リオ日系協会で公演（観客約150名）



コルコバードの丘で



IBC 岩手放送の取材



15日（日）50周年式典、祝賀会後「いわて芸能まつり」ではグアルーリオスの「憩の園」入園者や一般にも開放（観客約600名）。



16日（月）サントスの「厚生ホーム」を慰問（観客130名）アンコールなどもあり、素直に喜んで頂いた。

17日（火）アチバイア100周年委員会で「日本の唄と踊り」を披露。

13日（金）朝、杉村公使の墓参後、一路サンパウロへ。夜、サンベルナルド市文化センターで1500名の観衆を前に大熱演。観客は総立合で大拍手と声援を。

被災地へ義捐金を

去る6月14日午前8時半過ぎ（日本時間）岩手県南部（一関、金ヶ崎、平泉、奥州地方）や、宮城県北部で震度6強の地震が発生。被害は山間部を直撃、多数の道路寸断や土砂崩れで岩手県2人死亡。宮城県側で8人死亡、12人の行方不明者が出た。

13日夜、リオ訪問中の達増拓也知事と高橋由一金ヶ崎町長は、緊急事態に14日の便で急遽帰国を決断した。

その後の報道で被害の甚大さを知った県人会では、急遽有志に計り義捐金の募金を始めた。アチパイア100周年からの義捐金500ドルは藤沢清美氏によって6月23日県国際課に届けられ、また県人会や有志からの20万円は、7月4日義捐金を託された水沢の菅原達郎氏や熊谷安雄氏が岩手日赤の代表である達増県知事に手渡した。

尚、県人会で引き続き義捐金を募っている事を知った会員や他県人会、有志などから義捐金が寄せられている。募金は7月末まで県人会で受付している。

現在（7月24日）までの義捐金協力者名（敬称略）アチパイア100周年委員会、岩手県人会、千田曠曉、多田マウロ、藤村光夫、高橋凡児、菊地義治、佐々木憲輔、伊藤春野、千葉直義、松本ミ、藤村秋夫、松平恵子、林プロポリス、長野県人会、新潟県人会、矢島みどり、田鎖満、山下ヒロミツ、福岡力男、山中正二、ご協力ありがとうございました。

※ 7月24日未明、岩手沿岸北部で震度6強の地震が発生。県土全体が激しく揺れた。死者はいなかったが70数名のけが人が出た。



約10メートルにわたリアスファルトが陥没し、通行止めになった市道＝14日午後3時50分。
奥州市衣川区上立沢・黒滝温泉付近



第2回海外県人会サミット

6月16日（月）45周年に続き、2回目の海外県人会サミットが県人会館で行われた。出席は岩手県から渡辺幸真県議会議長、岩間隆NPO国際課長、平野信二議長秘書、北柄玲子国際課主任、大石満雄花巻市長が出席。海外県人会はニューヨークから岩崎雄克会長と角地京子会員、アルゼンチンの石亀喜久子会長、猪俣 会員、パラグアイは武藤嵩アスンション会長、菅原祐介イグアス会長が出席。

ビラポの西館世公会長、佐藤豊氏、小泉浩氏は飛行機の時間があり開催前挨拶に来所。ブラジルは山中正二ベレン会長、当会から千田会長、多田マウロ副会長、留研生から峯ソフィア、川村岩上ゆり、田中エレナが出席、IBC岩手放送スタッフが取材した。

千田会長からサミットの趣旨説明があり、岩崎NY会長から順に自己紹介や県人会活動、留研生問題、交流のあり方、母県でサミット開催などの要請があり、県出席者からの所感があり有意義なサミットであった。



2分間で54杯！ わんこそば大会

県人会では岩手の食文化を伝えようと、5月18日（日）県人会初の「わんこそば大会」を開催。2分間で何杯食べられるかの競技と、ゆっくり味わい食べ放題があった。材料は全て日本製（そば、つゆ、出汁）を提供。

競技は女性、子供、男性と6回行い、「それじゃんじゃん」「それどどん」などの掛け声につられ、量が増えると途中でむせ返ったり咳をしながら挑んでいた。女性は28杯、子供16杯、男子は54杯が最高だった。

一位にはトロフィーと参加者には記念メダルが授与された。食べ放題ではゆっくりと味わい最高は75杯だった。（この人は体が大きく昼食にカレーを食べてきた人）

初の大会でしたが「わんこそば」はブラジルで珍しさと、どんな競技だろうと関心を持たれ話題性の高い催しで、150名ほどが参加し盛り上がった。

お客さんから、また是非わんこそば大会を行って欲しいと、要望があり期待された。



イワテケン in ブラジルを観て IBC 岩手放送

私の従姉妹（父の弟の子、清水リーナさん）は、約10年前に一年間盛岡に留学しています。そして今回のレセプションに参加しが入りまし手県知事といます。詳しくは多分池アナ）にもます。私も18ルへ行きまし口。リオデの他の都市た。懐かしく達増知事と清水リーナさん今月27日の特別番組を楽しみにしています。



達増知事と清水リーナさん

一関市東山町長坂字久保94-11 佐々木恵美子

「日本祭り」に盛岡冷麺（もりおかれいめん）

今年も県連主催の第11回日本祭りが、7月18日から20日までイミグランテ展示場で開かれた。県人会は19日20日の二日間郷土食「盛岡冷麺」（麺300食とスープは輸入）「三陸わかめうどん」「餃子」「酒・南部美人」を出品した。

初日用に仕入れたうどんや餃子は売切れ、翌朝新たに仕入れ、冷麺は両日売れるように分けた。初めての冷麺で心配されたが、興味やどんな味かと食べた人々が美味しい美味いを連発、結局は完売。祭りを手伝ったボランティア、忙しく休む暇もなく最後まで頑張ってもらった事に感謝したい。

杉村公使墓碑整備の協力者、リオの鹿田夫妻は冷麺の試食に美味しいものですねと。交流事業で滞在中の佐々木栄洋氏（遠野市）も訪れ、祭りの規模に驚いていた様子。県人会式典後滞在中の藤村秋夫さんは、集客力を評価していた。

両日の売上は、冷麺268食、うどん約900食、ギョウザ1200食余を完売した。開催中好天に恵まれ20万人の人出（主催者発表）で今年も成功だった。



反面主催者側はアルコール規制（lei-seca）で、アルコール飲酒は決まった場所とか、スタンドでビールや日本酒販売禁止を通告していた。祭りに協力していた1ビール会社だけが堂々と販売。（あまりの苦情に毎年酒を販売している某県人会だけ特別の場所を提供されたのか、酒カクテルを許している）このような独禁法紛いは如何なものだろうか。反省を促したい。このような事であれば、スタンドでアルコール

類を売っても良いが、酒類は規定場所で飲んで下さいと指導する方法を採ったら良かったのではないかな。

以前までは各スタンドで協力会社の飲料（ビール、清涼飲料）、又は各スタンドが用意した飲料も売上の一部であったが・・・

賑やかに歓迎交流会

6月14日（土）、空港に達増知事や慶祝団を迎え、午後、知事一行・郷土芸能団はイビラプエラ公園にある、日本移民先没者慰霊碑を参拝した。



夕刻、県人会館で慶祝団一行（知事・大石花巻市長・高橋金ヶ崎町長・県議団、南部県人会名誉総裁・盛岡山車・岩手民謡使節団・岩手放送スタッフ等の一行と、海外県人会からニューヨーク、アル

ゼンチン、パラグアイの3県人会など総勢約70名）や会員家族、飛入りで靖国講関係者など、総勢250名余が会館を埋め尽して歓迎交流会が行われた。

会長の歓迎式辞や来賓の祝辞があり交流会が始まった。慶祝一行は県人との再会を喜び故郷の話や現状を語り合うなど賑やかであった。



歓迎のサンパショーでは慶祝団や会員も加わり踊り、芸能使節団は県人会太鼓で「さんさ踊り」を披露。さながら「サンバとさんさ」の国際競演であった。

宴もたけなわの頃、達増知事と高橋金ヶ崎町長は岩手内陸地震のため、急遽帰国せざるを得ない状況を説明し会場を後にした。（知事は礼状の中で、また、うかがいたいと記していた）

50周年式典の祝電（順不同、敬称略）

高橋由一（金ヶ崎町長）、高橋勇一郎（長野県在）、三浦宏（岩手日報社長）、清水泰宏（開成パシオン社長）、苫米地静子、岩船信一（神奈川在）、鈴木直志（テレビ岩手）、佐々木久六、三上良博（盛岡）、野田武則（釜石市長）、本田敏秋（釜石市長）、高橋佑幸、

IMPRESSO



右前列から、カサビ市長、皇太子殿下、麻生太郎日本国特使

日本移民100周年式典・皇太子殿下ご臨席

日本移民100周年式典が、聖市アニャンビーのサンボードロモ・カーニバル会場で6月21日(土) 皇太子殿下をお迎えし、観客約3万人の中開催された。

朝から降っていた雨は、何故か皇太子さま到着前に止み、式典は

とどろりなく挙行された。神戸から運ばれた「友情の火」が点火され、上原委員長、カサビ市長が歓迎の意を表明、殿下は「両国の関係をさらに深め、共に未来へ」と挨拶され、老移民の目がキラリ光る光景も見られた。

会場では、儀仗兵に加え海上自衛隊員の行進、踊り、三千人の

コーラス、千人太鼓、山車など盛り沢山のアトラクションがあり、大花火で式典を閉めた。



行事のお知らせ

8月31日(日) 第38回会員交流懇親・誕生会

9月19日(金) 盛岡さんさ踊りとの交流会

9月21日(日) 第25回東北6県北海道親睦演芸祭(場所:宮城県人会)

10月末日 バーラボニータ・キロンボ温泉旅行



Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil

ブラジル岩手県人会

RUA THOMAZ GONZAGA, 95-M - CEP 01506-020 - LIBERDADE - SÃO PAULO - BRASIL

TEL/FAX (11) 3207-2383

www.iwate.org.br - e-mail: iwate@iwate.org.br

※ ブラジル岩手県人会ニュース 2008年7月発行 159号